

糖尿病の治療 第2版

平田幸正 著

吉岡 成人(北海道大学大学院医学研究科病態内科学講座・第二内科)

東京女子医科大学糖尿病センター名誉所長でいらっしゃる平田幸正先生が『糖尿病の治療』の初版を出版なさったのが今から12年前、1991年である。テキストは共著という常識の中で、平田先生がおひとりでまとめられた『糖尿病の治療』は、糖尿病の歴史から当時のスタンダードな治療まで、幅広い範囲をまとめられた素晴らしい書籍であった。

医学の著しい進歩と細分化に伴い、個人の力でカバーできる分野がどんどん縮小しているなかにあって、分厚いテキストをお一人でまとめられた先生の情熱とお力に心から敬服したのを覚えている。

このたび、『糖尿病の治療 第2版』を拝読し、私は12年前の驚きは単なる驚きではじまりであり、今回の『驚愕』の序章にしか過ぎなかったのではないかという思いにかられている。

糖尿病という病気の、病態生理、診断、治療、合併症のどの分野も確実に進歩を続けており、それぞれを専門とするエキスパート、スーパーエキスパートがいらっしゃる中で、おひとりでこれらの幅広い分野の知識を整理し、新に文章を練り上げることが困難きわまりないことが容易に想像できる。しかし、78歳になられる平田先生が情熱を持って書き上げられた本書は糖尿病の広い分野をカバーし尽くしており、まさに、著者の姿勢が首尾一貫した、consistencyという言葉がフィットするテキストである。

総ページ数1,500頁を超える重いテキストではあるが、内容のほとんどすべてが新に書き下ろされており、引用文献も、雑誌のみならず学会抄録にまで及んでいる。

気力・体力ともに充実しておられる平田幸正先生の糖尿病治療に傾ける情熱がテキスト以上の重さであることが伝わってくる一冊である。■

● A4変判 頁1,512 2003年

定価(本体24,000円+税)

[ISBN 4-8306-1344-0] 文光堂刊